

「アトツギ甲子園」全国大会に出場

小長井市長に報告 新規事業プラン競う 富士市内で初の快挙



動画を見ながら説明する齊藤専務取締役

富士市吉原の株齋藤鐵工所（齊藤治代表取締役社長）の齊藤雄大専務取締役は17日、富士市役所を訪れ、小長井義正市長に「第5回アトツギ甲子園」全国大会出場を報告し今後の抱負を述べた。

同甲子園は全国各地の中小企業・小規模事業者の後継予定者が、既存の経営資源を活かした新規事業アイデアを競うもの。齊藤さんは関東ブロック地方大会で優秀賞を獲得し、第5回全国大会に出場した。今回は全国から老舗菓子屋や製造業、農家など189人が6

ブロックにエントリーし、新規事業プランを競い18人が全国大会出場を決めた。齊藤さんは初の快挙となった。

同鉄工所は地場産業の製紙業界を設備面から下支えし、製紙機械の設計から製作、組み立てまで一貫体制で対応している。製紙機械メーカーとして100年以上続いていることを誇りに思い、同大会では「製紙機械のメンテナンス集団が日本の紙づくりの未来を守る！」をテーマに発表した。惜しくも入賞には至らなかったが、技

術や職人の想いを存分にアピールした。表敬で齊藤さんは「以前は商工中金でいろいろな金融や企業の取り組みを扱い、その中でアトツギ甲子園を知った。家を継ぐ当事者となり、富士市地域産業を維持、富士市地域産業支援センター（beパレットふじ）にも相談。新しいビジネスモデルの提案と同甲子園のピッチイベント（プレゼンテーション）がマッチし出場を決めた」と話した。

またタブレット端末で発表動画を見せながら、「製紙会社で使う

機械は用途に合わせて各社カスタマイズされ、メンテナンスが困難。それらをプラットフォームにして技術や職人、メンテナンスを管理することでユーザーが安心できるよう構築している」と説明。

「今後はプラットフォームを本格事業化し、各製紙会社にも広めていきたい」と話した。

小長井市長は「富士市の基幹産業である紙の製造には必要不可欠な分野。機械トラブルによる工場停止は業界にも大きな影響を与える。メンテナンスが容易になり、職人技の継

承や持続可能な社会の「てもらいたい」と期待システム構築に貢献しを込めた。